

パワフルAOMORI! 創造塾 講座第8回

パネルトーク「わたしがコトをおこしたとき 創造編」

平成27年12月12日(土) 青森県総合社会教育センター 第2教材開発室 参加者42名

今年度最後の第8回目の講座は、「わたしがコトをおこしたとき 創造編」と題して、青森大学地域貢献センター長・教授の柏谷至先生をコーディネーターに、「八戸市民活動団体 SMIRING」代表の桑原富美一氏、「カッチャート・プロジェクト」代表のたかはしたかこ氏、「イカす大畑カダル団」代表の長岡俊成氏をパネリストとして、パネルトークを実施しました。

前半は各パネリストによる事例発表、後半は会場からの質問等に答える形でのフリートークを行い、活動内容や活動に対する想い等を熱く語っていただきました。

パネリストの金言

SMIRING

- ・できない理由を探すのではなく、どうやったらできるのかを考えよう。
- ・自分がやりたいと思うことを声に出してみよう。必ず想いに共感してくれる人がいる。その共感は広がっていく。
- ・活動領域は変化しても「笑顔の和を作ろう、心のエネルギーの充電」という団体のねらいは一貫して変わらない。
- ・自分が楽しくなければ活動は続かない。
- ・「こんな所でできたらいいよね!」のような『直感』も大切。

桑原 富美一 氏 (市民活動団体 SMIRING 代表)

小学校高学年を対象にしたプログラムで、商売体験を通して「自ら決めて行動できる人材の育成」を目指す「ジュニアエコノミーカレッジ in 八戸」や「青森で東京並みの学びの場を提供」を目指した各種セミナーを実施している。昨年5回目を実施した「楽校の中心で愛を叫ぶ」は、ふだんなかなか言えない大切な人への想いを言葉に出して伝えるというイベントで、170万本のひまわりが咲き乱れる会場が感動で包まれる。

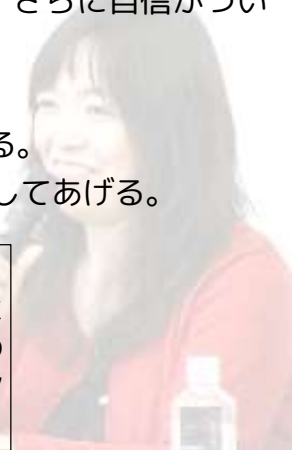


カッチャート・プロジェクト

- ・自信があるから始めるのではなく、自信は活動を始めてから作り上げられていくもの。「一歩踏み出したくても自信がない」そんなときでも、仲間たちと一緒に活動していく中で、お互いに自信をつけ合っていける。バージョンアップしていきながら、さらに自信がついていく。周りのみんながいたから自信がついてきた。
- ・以前に比べ、広い目で考えられるようになった。
- 何を言われても、自分がまた考えるためのチャンスをもたらたと感謝する。
- ・誰にでも必ず可能性がある。その人の優れたところを見つけ、背中を押してあげる。

たかはし たかこ 氏 (カッチャート・プロジェクト 代表)

すべての人たちが『ワタシらしく』暮らせるまちづくりを目指し、(1)自分らしさに気づける場(2)自分らしさを発揮できる場(3)自分らしさを互いに認め合える交流の場の3つの場を企画・運営している。2012年の設立以来、「ハッピーコミュニケーションCafé」「カッチャート☆パーティー」等、約80本のイベントを実施している。

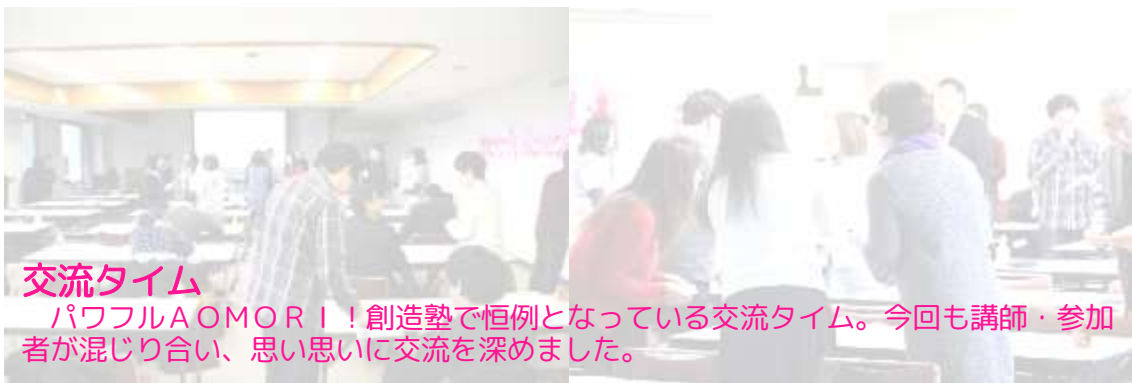
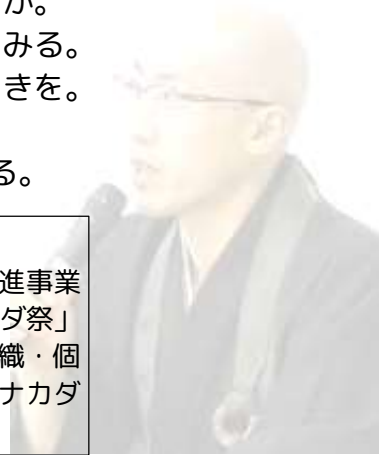


イカす大畑カダル団

- ・初期衝動。自分で勝手に使命感を感じて始めた。雷で打たれたように。
- ・やりたいことや好きなことから始まる。それが結果的に地域のためになる。
- ・禅の心は初心の心。大切なのは、初心を保ち続けていられるかどうか。
- ・自分の貴重な時間を使っているのだから、本当にやりたいことか問うてみる。
- ・将来、子どもたちが地域を愛し、元気にする人財となるための種まきを。
- ・自分事にしなければ活動は始まらない。
- ・自分の役割ってこれなんだなって思ったとき、確信・信念が生まれる。

長岡 俊成 氏（イカす大畑カダル団 代表）

地元であるむつ市大畑町の活性化を目指し、2012年に結成。以降、協働促進事業「大畑観光100人会議」、交流拠点運営事業「葉研温泉カフェkadar」、「ミナカダ祭」「あったか葉研冬まつり」等のイベント事業を企画し、むつ市大畑町に係る組織・個人の協働を促すプラットフォームの形成に尽力している。2014年実施の「ミナカダ祭」は2,500人を超える来場者数を記録した。



交流タイム

パワフルAOMORI！創造塾で恒例となっている交流タイム。今回も講師・参加者が混じり合い、思い思いに交流を深めました。

柏谷先生のまとめ

今日のお三方の事例からも、アプローチの仕方、活動内容、きっかけ、展開の仕方、心の持ちよう等いろいろあることがわかります。まずは一歩踏み出してみるにより、新しい経験となり、自信が生まれ、さらには、声を上げてくれる人が出てきます。皆さんも、普段考えることや好きなことから地域のために一歩踏み出してほしいと思います。

柏谷 至 氏（青森大学地域貢献センター長・教授）

専門である環境社会学に関する研究教育活動と並行し、地球温暖化対策、公共交通、コミュニティ再生などの分野で、住民参加による地域課題解決のプロジェクトに携わる。参加者主体の学習や合意形成の手法としてのワークショップやファシリテーションの実践例も多数。2012年からは青森大学地域貢献センターのセンター長として、大学が立地する青森市幸畑団地や平内町などとの連携事業を担当している。

アンケートの声

- ・コトをおこすには多くの試練があり、いろいろ苦労があるのだと知り、それをわかっていても活動することにとっても尊敬しました。
- ・同じようなものに興味がある人に出会える貴重な機会です。
- ・自分も任意団体を立ち上げようと考えています。勇気が出ました。
- ・何事も自分が楽しんで活動することの大切さを改めて確認しました。今日の話をもとに地元を持ち帰りメンバーと共有したいと思います。
- ・パネリストの方々の活動がとても参考になりました。最後の自信は自分を信じること！共感しました。また、途中の交流タイムもいい機会でもとてもよかったです。ともに学び、つながるという創造塾、今後も応援したいと思います。